

2018 年度 (平成 30 年度) 学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番 24	福山市立 大門中 学校
最終更新日		2019年(平成31年)3月8日	

I 福山市
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
<ul style="list-style-type: none"> ・力量ある教職員の育成 ・地域行事への参加等により地域を愛する児童生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・表現力が弱い。 ・自尊感情の低い児童生徒が固定化している。 ・欠席率は低いが、体力向上ができていない。 ・目的意識をもった地域行事等への参加が不十分である。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え、学び、自尊感情の高い生徒
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画（年間指導計画一覧表）に基づく「見せる・見る授業」を実施する。 ・書く活動を1時間の授業の中に位置づける。 ・自尊感情を高める取組を継続する。 ・レーダーチャートを活用し学力を高める取組をする。（年4回アンケート実施） ・家庭学習ががんばり週間後の漢字確認テストを校区3小学校で作成・実施する。

III 自校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	
確かな学力と豊かな心を備え、物事を深く考え行動する生徒を育成することで、地域の信頼に応える。		めざす子ども像	1年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を発見している。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えを持ち、目的や意図に応じて、論理的に説明をしたり、適切な方法を選択したりして表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気づき、相手の立場を尊重し、行動している。
学校教育目標			2・3年	生活や実社会と関連付けた課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	生活体験や既習事項から判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、情報を他者と共有しながら、必要な選択し、表現している。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、粘り強くやり抜くことができるよう行動している。	仲間とともに、何かを成し遂げた成功体験をもとに、人と人とのつながりの中で、助け合い励まし合って行動している。
現状		教科等	道徳				
〈児童生徒〉		研究	主題・内容等	主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～			
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着に課題が見られる生徒が固定化している。 ○生徒自ら課題を解決しようとする自治的な活動が弱い。 ○自尊感情は高まってきているが、克服し切れていない生徒も多い。 				めざす授業の姿			
〈授業〉		<ul style="list-style-type: none"> ・単元の中でつきたい力を意識した、授業展開を行う。 ・生徒の主体的な学びにつながるよう「ねらい」を設定し、それにそって生徒が意欲的な活動を行っている授業を確立する。 					
<ul style="list-style-type: none"> ○教師主導で、生徒が主体的に学ぶ授業づくりになっていない。 ○単元でつける力を系統立てて指導し切れていない。 ○自分の考えを論理的に表現する力をつけさせていない。 							

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

						福山市立			大門中			学校			
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							目標に係る取組状 況	達成 評価	改善方 策	目標に係る取組状 況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	達成 評価	改善方 策	達成 評価	改善方 策	
4	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	新規	授業が生徒の主体的な学びにつながるよう授業改善を図る。【課】 【主】	授業記録簿の中に「ねらい」を記入し、ねらいが生徒の主体的な学びにつながったものかを検証する。	生徒アンケート「考えたり調べたりするなど主体的に授業に取り組んでいる」を80%以上	□生徒アンケートの結果、「主体的に授業に取り組んでいる」と回答した生徒が93%だった。しかし、「授業で、自分の考えを積極的に伝えている」と回答した生徒は、57.2%だった。	4	3	○「協同的な学び」の場を授業に取り入れ、支援が必要な生徒も意欲的に学習に取り組めるよう工夫する。	□生徒アンケートの結果、「主体的に授業に取り組んでいる」と回答した生徒は95%だった。◎教科の一斉研修で、「学習支援の必要な生徒の課題に対する手立てを工夫した授業計画を立てている」と回答した参観者は78.6%だった。授業改善は図られているが、支援の必要な生徒の意欲を引き出す取り組みはまだ不十分である。	4	4	3	○支援の必要な生徒に対する手立てを、教科会で交流し、有効だった取り組みを共有する。
			継続	課題を解決する過程で、自分の考えを論理的に発表及び記述できる生徒を育てる。【思】	授業の中に発表及び記述の場面を設定すると共に定期試験等に思考・記述を問う問題を作成する。	定期試験の思考・記述を問う問題の通過率50%以上、無答率5%以下。	□1学期の定期試験の結果は、通過率55%、無答率10%だった。	3	2	○思考・記述を問う問題の難易度に課題があるので、教科会で検討して改善する。また、授業で自分の考えを論理的に記述させる場面を設定し、意図的に発表させる。	□2学期の定期試験の結果は、通過率50%、無答率12%だった。◎一斉研修で、「生徒は自分の考えを積極的に伝えている」と回答した参観者は84.3%だった。自分の考えを論理的に記述することに課題がある。	3	2	3	○論理的な記述になっていない文を添削させて、文の構成を確認する。
1	主体性・積極性の育成	★	継続	意欲を持って自治的な活動ができる生徒を育成する。【課】	日々の学活や年間の行事の充実を図る。また、委員会活動を計画的に仕組む。	生徒アンケート「学年・学級の課題及び委員会活動に意欲的に取り組んでいる」を70%以上	□生徒アンケートの結果、「意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒は、91%だった。	4	3	○午後のHRを管理職と副担任で参観し、班活動・学級活動の充実を図る。	□生徒アンケートの結果、「意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒は、93%だった。◎各種委員会で点検活動に取り組んだり、学年や学級の課題解決に向けて、自分たちで取り組みを考えることができた。	4	5	4	○班活動・学級活動の充実を図るために、班長会を計画的に実施し、リーダーとしての自覚をもたせる。
			継続	自尊感情が高まった生徒を育てる。【主】【共】	日々の集団づくりを通して生徒の頑張りに気づく機会を設定する。	生徒アンケート「自分がまわりから認められている」を75%以上。	□生徒アンケートの結果、「まわりから認められている」と回答した生徒は、75%だった。	3	3	○お互いの頑張りに気づく場を、学活や道徳などで設定し、通信で紹介していく。	□生徒アンケートで、「まわりから認められている」と回答した生徒は、78%だった。◎「理由なく学校を休みたいと思うことがない」と回答した生徒は70%だった。お互いの頑張りを通信などで積極的に発信できたが、生徒間のトラブルがあった。	3	4	3	○個人面接やいじめアンケートなどで、生徒の思いを把握して、嫌な思いをさせている言動をなくす。
4	自己の健康管理と体力の向上に取り組む生徒の育成		継続	意欲的に目標管理に取り組む生徒を育成する。【主】	無遅刻達成日等を公表するなど意識をもった取組を充実する。	無遅刻達成日数が授業日数の60%以上のクラスを全クラス中6クラス以上。	□無遅刻達成は、4月10クラス、5月10クラス、6月9クラス、7月10クラス、9月10クラスだった。	4	4	○遅刻して登校した生徒は、職員室で登校時間を確認し、全教職員で声かけをしていく。	□無遅刻達成は、10月10クラス、11月10クラス、12月8クラス、1月9クラスだった。◎皆勤賞・精勤賞を目標に、自己管理に取り組むことができていく。	4	5	5	○無遅刻達成日数の目標を毎月提示する。また、遅刻して登校した生徒は職員室で登校時間を確認する取り組みを継続する。
			★	仕事のスピード化、効率化を意識した業務を行う。【課】	勤務時間7時間45分を意識した業務を行う。	平均退校時間を前年度平均20分以上早めるとともに一斉退校時間17時20分を厳守。	□平均退校時間は、前年度平均より約32分早くなっている。また、一斉退校時間17時20分は、ほぼ100%厳守されている。	3	3	○起案のメ切りを早めに設定することで、見直しを持って仕事ができるようになる。	□平均退校時間は、昨年度平均より約30分早くなっている。また、一斉退校時間は、ほぼ100%守られている。◎退校時間は平均として早くなっているが、退校時間が遅い職員が固定化している。	3	4	4	○メ切りぎりぎりの提出にならないように、学年主任が提出状況を把握して声かけをする。
5	保護者・地域から信頼される学校経営		継続	自ら進んで地域貢献ができる生徒を育てる。【共】	「地域テーマ募金」や「地域調べ」等の取組を計画的に実施する。	地域ボランティアや地域行事に参加できる生徒をのべ150人以上。	○夏祭りや敬老会など、のべ103人の生徒が地域ボランティアに参加した。	3	3	○ボランティアの参加募集を教室掲示して、参加を積極的に呼びかける。	□地域ボランティアや行事に、1年間で239人の生徒が参加した。◎教室掲示などで、早めに参加を呼びかけたり、ボランティアバッジを配付したりすることで目標を達成できた。	4	5	5	○ボランティア活動に参加した生徒に対する、地域の方の感想を積極的に紹介して活動の成果を実感させる。

【プロセス評価の評価基準】

評価	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が一定程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

【達成評価の評価基準】

評価	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

【総合評価の評価基準】

評価	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。